

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年2月28日

事業所名 ヴィストカレッジ金沢駅前

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			個別訓練等、少人数療育を実施。	
	2	職員の配置数は適切である	○			・集団訓練は常にスタッフ2名体制。 ・ケア記録記入担当を配置。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		エレベーターによる来所が可能。	段差の解消の工夫を実施予定。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			児童発達管理責任者と拠点長の定期MTGにて報告・改善策を検討。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者向け評価表に限らず、定期的なアンケートを実施。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○			毎年自己評価を実施し公開予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	未実施。	外部評価を実施し、より良いサービス提供につなげる。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			・発達障害学習支援サポーター等の外部研修に参加。 ・月1回、障害特性や支援法のスタッフ内勉強会を実施。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			利用開始前に3回までの体験、ご家族や本人へのアセスメント面談を実施し計画を作成。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			事業所単位のアセスメントシートを使用。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			各スタッフのスキル・知識を生かしたスキル訓練を作成し、児童発達支援管理責任者が取りまとめ	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			年単位で提供するスキル訓練を立案。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		学校の有無ではなく、スキル訓練ごとに課題を設定。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			支援のねらいや目的、時間配分を記入したタイムスケジュールを作成し、スタッフ間で共有。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			終礼にて利用者の情報共有を実施。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			・最低6ヶ月に1回のモニタリングを実施。 ・相談支援事業所や学校との連携にてヒアリングを実施。	
関係機関や保護者との連携	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○				
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○				

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○	受入体制なし。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている			○	現利用者の学校連携を実施。	新小学1年生が利用する際は、就学前の関係機関との連携を実施。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			自社の就労移行支援事業所(ヴィストキャリア)スタッフとの顔合わせ面談を実施。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			相談支援専門員との定期的な連絡・会議を実施し、支援内容を報告。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時の情報共有を実施。自力通所の利用者にはメールや電話での報告を実施。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○		H31年3月～定期的に保護者交流会を実施予定。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		H31年3月～定期的に保護者交流会を実施予定。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			・隔月で「カレッジだより」を発行。 ・毎月シフト表を発行。	
	35	個人情報に十分注意している	○				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			地域の企業にご協力いただき、職場見学や仕事体験を実施。	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している			○	職員間で周知。	年度内に保護者の方へ周知予定。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている			○		H31年3月に実施予定。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			虐待防止研修へ参加。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			○	利用開始前に必ずヒアリングを実施。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			システム上で全スタッフが閲覧できる形で管理。	